

■桂文治(初代) 落語家。芝居噺を大成して上方落語席の元祖となるも、早世した。

かつらぶんじ

大原騒動・・・1773＝ 摂津国(大坂)柴島村生まれ。

天明大飢饉始1782＝ 9歳：

田沼意次失脚1786＝13歳：

松田弥助の門人となり、

混浴禁止・・・1791＝18歳：

松平定信引退1793＝20歳：

ワラガ 正月・・・1794＝21歳：この頃から*噺家として活躍をはじめ、

古事記伝・・・1798＝25歳：大坂の坐摩社境内に*寄席を設けて口演した。

伊能測量始・1800＝27歳：

芝居噺の大成者で「按摩芝居」「昆布巻芝居」などは彼の口演によって“噺”としての型が出来た。芝居噺はその当時全盛の素人噺に対して、文治が職業的噺家としてそれらと一線を画するために工夫して創作したものである。現行の「蛸芝居」「昆布巻芝居」は文治作と伝える。また文治の素噺を「情深くして実あり」と賞賛した評がある。得意の演目は「道具太平記」「蚤風人体道中記」「大開好色合戦」など。ほかに「尽しもの」「女夫喧嘩」のシリーズがある。門弟が多く、文吉・文来・文東・幾勢・力造・文吾・北桂舎・里寿らの名を「落語系図」に記録する。文治の名跡は三代目以降が江戸に移り、文治を祖とする桂派が東西落語の大勢力になった。

浮世風呂・・・1809＝36歳：

著書は現行「皿屋敷」の原形が載っている「桂の花」(桂文公との共著)のほか、

高田屋拿捕・1812＝39歳：_噺本「勝の宿替」なども著したが、本領は口演の方にあった。

・・・・・・1815＝42歳：_没した。